カレード通信 Vol.54

2022年
4月号

4月 April

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 陶芸教室
3	4	5 赤ちゃんおはなし会	6	7	8	9 陶芸教室
10	11	12	13	14	15	16 陶芸教室
17 こどもおはなし会	18	19	20	21	22	23 陶芸教室
24 かがく実験教室	25	26	27	28	29 料理教室	30

小澤館長のコラム Vol.10

「ふせんは本の敵！」その理由は「のり」

ふせんって便利ですよね。目印にしたりコメントを書いたり。でもあれ、ご自分の本だけにしてほしいのです。カレードで返却される本の中には、おびただしい数のふせんがつけられたままになっていることがあります。困ります。スタッフがふせんを剝がすのが大変、という理由だけではありません。もっと重大な理由があります。それはふせんについているのりのせいで、剥がすと同時に文字まで一緒に剥がれてしまうからです。特にある程度時間がたったものは丁寧に気を付けて剥がしても時すでに遅しです。一度ご自分の本で試してみるとわかります。魔法のように文字が消えます。ついでに言うとページを破ってしまったときのセロハンテープでの修理。良かれと思ってのことでしょうが、セロハンテープはすぐに劣化して変色します。破ってしまったときは何もせずにスタッフへ申告していただきたい。専用の補修テープで修理します。そうなのです、図書館にとってふせんとセロハンテープは敵なのです。日々スタッフはこれらの敵と戦っています。（つづく）

図書館展示情報

一般展示　最初の一行、最初の一歩

４月は　はじめの一歩を踏み出すにふさわしい本をご用意します。
心に残る書き出しで始まる小説だったり、何かを始めるきっかけとなる本だったり。
はじまりの季節に、どうぞはじまりの一冊を!!

ＹＡ展示　厨二既往者（ちゅうにきおうしゃ）の診療録（カルテ）

「己（おの）が半生を振り返り、如何（いか）に愚（おろ）かな時期（じき）であったことであろう。豈図（あにはか）らんや誰（だれ）しもが罹（かか）ってしまうのである。」

中二病とは「中学校2年生ぐらいの子供にありがちな言動や態度を表す俗語。自分をよくみせるための背伸びや、自己顕示欲と劣等感を交錯させたひねくれた物言いなどが典型で、思春期特有の不安定な精神状態による言動と考えられる。医学的な治療を必要とするような病気や精神障害ではない。」（『日本大百科全書』より）

児童展示　パン VS ごはん

みんなは、パンとごはんどっちが好き？
ぽかぽかあたたかい季節が近づくと、なんだかおなかも空いてくるよね。
今回はおいしそうな本を集めてみました。朝ごはんをしっかり食べて、今日も元気にがんばろうー！！

期間展示　自閉症啓発展示（新書前コーナー）

このほか館内の様々な場所でも展示をしています。
ぜひこの機会にお立ち寄りいただき、色んな本と出会ってください♪

最新情報はコチラから！
↑Twitter　↑Facebook

野々市市立図書館　野々市市民学習センター
学びの杜ののいちカレード

［開館時間］ 9:00~22:00
［休 館 日］ 毎週水曜日
年末年始(12/29~1/3)
特別整理期間

〒921－8845
石川県野々市市太平寺４丁目156番地
TEL：076－248－8099
FAX：076－248－8175
HP｜https://www.kaleido-nono1.jp

HPのQRコードはこちら↓

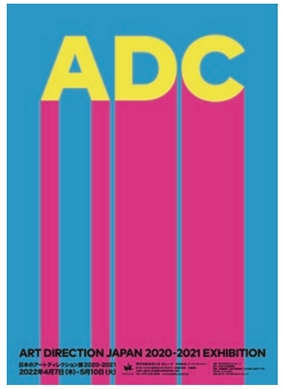
４月カレードイベント情報！

日本のアートディレクション展 2020-2021

2022年4月7日(木)から5月10日(火)まで、市民展示室・オープンギャラリーにて『日本のアートディレクション展2020-2021』を開催いたします。

街でふと目に留まったCMやポスターはありませんか？アートディレクションとは、私たちの日常生活に溶け込んでいる広告やパッケージ、環境・空間などのデザイン制作を指します。

本展は、東京ADC（アートディレクションクラブ）が公募し、2019年5月から2021年4月までの2年間に発表・使用・掲載された約10,000点の作品から、選りすぐられた受賞作品と年鑑収録作品を展示します。ぜひ、日本のアートディレクションの最前線をお楽しみください。



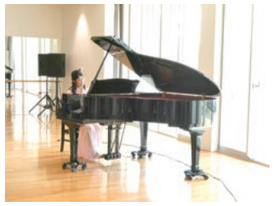
※イベントは変更・中止となる可能性があります。予めご了承ください。

３月イベント報告

『左手のピアノコンサート』

3月６日(日)、音楽スタジオにて、野々市市在住のピアニスト、黒崎菜保子さんによる「左手のピアノコンサート」を開催しました。

左手だけで奏でているとは思えないほど、力強く、美しい演奏を聞かせていただき、参加者の皆さんからもたいへん好評でした。



ののいち電子図書館の利用範囲が広がりました！

ののいち電子図書館を利用できる方が、2022年4月1日より野々市市に在住の方だけでなく「野々市市に在勤・在学」の方も対象となりました。
これを機に、ぜひご利用ください！

※利用登録が必要です。野々市市立図書館の利用者カードをお持ちの方であれば、カウンターまたはお電話で受け付けています。
※在勤・在学を証明できるものが必要です。

今月のおすすめ本

『ベージュ』　著者：谷川俊太郎　出版社：新潮社　分類ラベル：911.5/タ

今回紹介する谷川俊太郎の詩集『ベージュ』は2020年に刊行されたものです。代表作「二十億光年の孤独」は、みなさん聞いたことのある詩かと思いますが、この詩集が刊行されたのは、なんと1952年。谷川俊太郎が21歳のときです。彼はいま90歳。70年もの間、現役で詩を書き続けています。

装丁もおしゃれなこの詩集『ベージュ』は、谷川俊太郎が88歳のとき、つまり米寿（べいじゅ）のときに作られたから『ベージュ』というタイトルだそうです。言葉遊びが効いていますね。やさしくて静かな色の表紙には、よく見ると「88」の水引がかかっています。

「めがさめる　どこもいたくない　かゆいところもない　からだはしずかだ　だがこころは　うごく」
『ベージュ』p.6「あさ」より

この詩集のなかで、私が好きな詩は「あさ」「イル」「にわに木が」「蛇口」「どこ？」です。言葉によって情景がかわるがわる変化していく感じや、リズムがおもしろく感じられます。

彼がいままで書いてきたもののなかで同じ言葉を使った詩はたくさんありますが、歳を重ね、言葉を体感していくことで、まだまだ私たちに新たな感覚を呼び起こしてくれるのだと思います。

こんな伸びやかな感性のまま、ベージュを迎えたいものです。　（スタッフＴ）

こちらの本は、カレードと女性センターに１冊ずつ所蔵しています。